

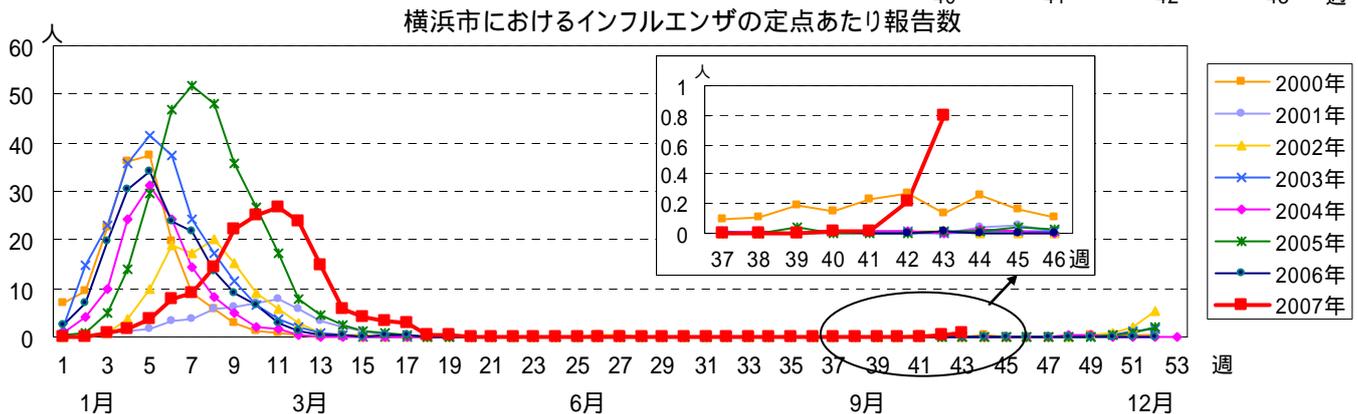
横浜市におけるインフルエンザ等の流行についての臨時情報

1 今シーズンの感染症発生動向調査におけるインフルエンザの患者発生状況

横浜市では、グラフに示すように、過去6年間の流行と比べて、最も早く増加の兆しが見られています。

横浜市内の患者定点医療機関のご協力で報告いただいた迅速診断用検査キットによる型別の判定をグラフに示しました。

これは、患者発生報告書に検査結果を記載いただいたものについて集計しました。型別では、A型のみでの報告で、B型はありません。



2 今シーズンの病原体定点等の検体からのインフルエンザウイルス分離状況について

横浜市内の病原体定点の検体からは、ここ数年間は大きな流行が見られなかった A ソ連型が検出されており、今後の動向に、よく注意していく必要があります。

分離したウイルスについて、遺伝子解析及び血清学的検査を行った結果、2007/2008 シーズンのワクチン株である A/Solomon Islands/3/2006 と類似のウイルス株であったため、ワクチンの効果が期待できます。

また、薬剤耐性に関する遺伝子解析の結果、抗ウイルス薬のタミフル・リレンザ感受性株で、アマンタジン耐性株であることが、推定されます。

横浜市内の病原体定点の検体(10月22日受付)からは、発熱 上気道炎 嘔吐の子供から A ソ連型(AH1N1)と RS ウイルス-B 型(PCR)のウイルスが分離されました(混合感染)。また、発熱 上気道炎 筋肉痛の成人から、A ソ連型が分離されています。

国立感染症研究所の病原微生物検出情報によれば、11月1日現在、全国の地方衛生研究所のインフルエンザウイルス分離状況は、AH1 型 29 例、AH3 型 2 例で、B 型の報告はありません。

3 今シーズンの学校等における集団かぜについて

本日まで、横浜市における学校等の集団かぜによる学級閉鎖の報告はありません。

4 RSウイルス感染症について

例年、インフルエンザに先がけて流行が見られます。今年は、第 37 週以後報告が続き、全国での報告数も、昨年より多い数で、増加傾向にあり、動向に注意が必要です。

横浜市内の病原体定点の検体からは、RS-A(PCR)1 株、RS-B(PCR)2 株、計 3 株が検出されています(1 例はインフルエンザ AH1N1 型との混合感染。)

最新の情報については http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/ をご覧ください。

横浜市健康福祉局 健康安全課 (TEL:671-2463)
 横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 (TEL:754-9816)
 検査研究課ウイルス担当 (TEL:754-9804)